

新潟地区で 新たな仲間が加入!



東日本ユニオンに 結集しよう!

組織強化・拡大を通して夏季手当、年末手当の取り組みにつなげるため全組合員での春闘総括を進め、組合員一人ひとりが飛躍をする決意をもって中央本部は妥協の判断を行い、3月18日に経営側に回答しました。



具体的なスケジュールを明らかにするよう求めると、設備管理システムのデータ移行は来年度下期、図面管理システムは来年

2019年度賃金改善に関する申し入れ

所定昇給額の6分の1を回答

中央本部は3月15日、申14号「2019年度賃金改善に関する申し入れ」の第3回団体交渉を行い、経営側より「定期昇給4係数」「所定昇給額の6分の1の基本給改定」「主務職以上の上級職社員への加算」「エルダー社員およびグリーンスタッフの基本賃金への500円の加算」とする回答を受けました。

「4係数の定期昇給の実施」「ベースアップの実施」「エルダー社員とグリーンスタッフの基本賃金の改善」については評価できるものの「賃金改定額と要求額との大きな乖離」「社員間格差が広がる分配方式」は、私たちの主張を全く無視した回答です。

経営側が「要求額を財務上支払うことはできる」としながらも「配分は経営判断」として示された会社回答は、労働側の敗北であると言わざるを得ません。

組織強化・拡大を通して夏季手当、年末手当の取り組みにつなげるため全組合員での春闘総括を進め、組合員一人ひとりが飛躍をする決意をもって中央本部は妥協の判断を行い、3月18日に経営側に回答しました。

「安全・健康・ゆとりが担保される体制の構築を」

新潟地区分会は2月3日、「寒ダラパーティー」を開催しました。

酒田地区分会は2月3日、「寒ダラパーティー」を開催しました。

「電気部門の変革2022」に対する申し入れ団体交渉

安全・健康・ゆとりが担保される体制の構築を

新潟地本は2月27日、申10号「電気部門の変革2022」に対する申し入れの団体交渉を行いました。

提案団体交渉では明らかにならなかった具体的な実施内容や要員算定の根拠をはじめ、不明な点を解消するために交渉に臨みました。

業務移管に伴う各種システムおよび改修内容について支社側は、必要なシステム改修を順次実施し、一部機能についてはパートナー会社へ移管メンテナンスセンターのJRユーザーを付与し、運用すると回答しました。

また検査の直轄、外注の区分はJ.E.I.S.で行い、そのあとユーザー設定変更のスケジュールであるとなりました。

具体的なスケジュールを明らかにするよう求めると、設備管理システムのデータ移行は来年度下期、図面管理システムは来年

日に行われた本部主催の「2019春闘総決起集会」と新潟支部で取り組んだ撤布行動に触れ、「労働者自身が賃上げを求めていくこと、そして全組合員

以上「安全・健康・ゆとり」が担保される体制を構築するために、申11号として9項目にわたり申し入れを行い、3月14日に団体交渉を行いました。

実施実施後には保守エリア拡大により、JRだけで現行通りの列車巡視を行うことは難しくなることから、T.E.M.S.にも行わせるよう求めました。

支社側は、法令周期に基づく列車巡視はJR社員が実施し、それ以外はパートナー会社で行うことも可能だと回答し、巡視にあたりJRとT.E.M.S.で手続きは変わらないとの考えを示しました。

デポ等必要な箇所に情報を得られる装置及び長時間常駐する事が可能な設備を設置するよう求め、統廃合したメンテナンスセンターのデポについては、異常時拠点として必要な整備をしていくとの回答を受けました。

T.E.M.S.に緊急自動車を配備する求めに対して支社側は、移管されるT.E.M.S.については要請していると回答しました。

みんなで寒ダラを囲み 懇親を深める

酒田地区分会は2月3日、「寒ダラパーティー」を開催しました。



当日は賃上げの第一回目の交渉が行われた翌日であり、本部の生田書記長より交渉内容や情勢について聞くことができました。また、今後の交渉や他の労働組合との連帯について意見を交わしました。

◆新潟支部◆

撤布を本部に届けました。



この撤布は2019春闘に対し、満額回答を求め新潟支部全組合員で取り組んだものです。